全東京写真連盟

撮影会写真コンクール

入賞作品集

審査対象 大宮第二公園モデル撮影会

撮影日 2021年05月23日

審査日 2021年08月07日

審査員:HARUKI先生

金賞
「ときめき」
金澤　義夫 様
モデル　inori

審査員:HARUKI先生 講評

今回このモデルさんを撮影した応募作品がたくさんありましたがどちらかというと精悍な印象が強い表情が多い中、このカットはズバ抜けた素敵な優しい表情の写真でした。ただ腰掛けただけのさりげないポーズなのですが、カメラを見つめる視線の中に「はじらい」や「ためらい」といった女性特有の照れのような揺れ動く乙女心の感情が伝わってくるような微妙な表情をうまく捉えた瞬間の勝利です☆
望遠ズームレンズでの撮影ですが焦点距離151mmで半身を収めるにはやや距離を保っているのはコロナ禍での撮影会では致し方ないですね。以前のように皆さんがもっと被写体へ寄っての撮影が出来るような環境へと早く戻ってくれることを望んで止みません。

銀賞
「ゲット・ワイルド」
高橋　敏之 様
モデル　杉浦檸檬

審査員:HARUKI先生 講評

まるで鳥の巣のような面白い形状の樹木の中からキリッとした表情で凝視する姿はポーズも相まってタイトルの如くまさにゲット・ワイルドですね。画面左下にレフ板か何かが若干入っております。本来なら画面に入らないようにフレームアウトさせるかもしくはプリント時にトリミングで省いてしまうべきところですが、敢えて入れたことによって遠近感を立体的に感じられるような錯覚からひとつの「味」となって作品にインパクトを与えてくれました。但しコレ以上入り込んでいたり、あきらかにレフ板だと明確に見てとれるようなケースはアウトですのでご注意くださいネ（笑）

銅賞
「生命の芽生え」
鵜飼　典彦 様
モデル　inori

審査員:HARUKI先生 講評

焦点距離200mm、絞り開放で背景をシンプルにボカす処理という王道のポートレート撮影方法ですが、美しいプリント仕上げに好感が持てるとても清潔感があるストレートな作品となっております。ボケ味が美しいとともに肌の質感にも着目させられました。
今回の金賞作品と同じモデルさんなのですが、こちらはまた違った表情で色香を感じさせてくれます。
誇張したポーズや表情をするのでは無くて、自然体の中に表現力を秘めた素敵なモデルさんをチョイスしたのも正解だったと思いました。

入選
「詩情」
小倉　良二 様
モデル　吉村 もか

入選
「物思うとき」
寺島　弘行 様
モデル　髙畠祈莉

入選
「笑顔の君」
中山　静男 様
モデル　佐野なぎさ

入選
「ゼログラビティ」
中山　昌幸 様
モデル　池内リナ

入選
「異国の入口」
守屋　久 様
モデル　アビラ凜

佳作
「心の人」
荒井　秀雄 様
モデル　inori

佳作
「新緑に囲まれて」
在原　博 様
モデル　吉村 もか

佳作
「芝生の上で」
生田　文夫 様
モデル　inori

佳作
「ある昼下がり」
小野寺　基之 様
モデル　池内リナ

佳作
「ちょっとひとやすみ」
佐久間　裕史 様
モデル　髙畠祈莉

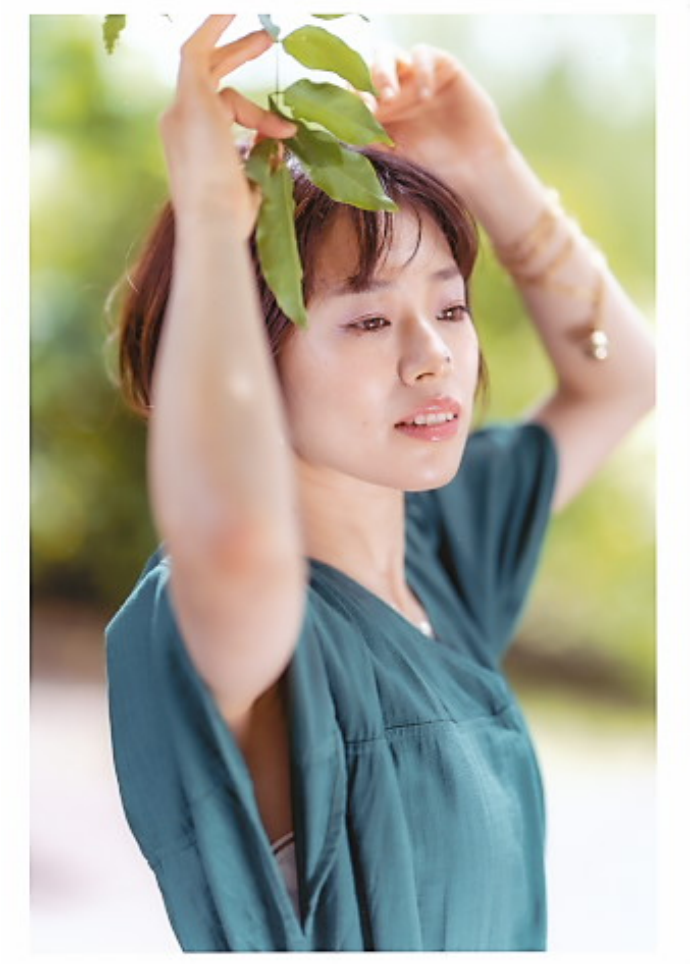
佳作
「私を見つめて」
佐藤　和明 様
モデル　inori

佳作
「愛しの人」
鈴木　幸彦 様
モデル　吉村 もか

佳作
「ブランコのように」
堤　博史 様
モデル　髙畠祈莉

佳作
「夏の装い」
内藤　勝之 様
モデル　池内リナ

佳作
「石垣にもたれる女」
深野　武雄 様
モデル　アビラ凜



次点
「たたずまい」
石川　玲 様
モデル　inori

次点
「さきどりの夏」
猿田　善和 様
モデル　池内リナ

次点
「未練」
芝本　勲 様
モデル　inori

次点
「初夏の光」
滝本　憲一郎 様
モデル　杉浦檸檬

次点
「新緑の公園で」
豊田　光司 様
モデル　池内リナ

次点
「大宮ブルース」
星野　祐一 様
モデル　吉村 もか

次点
「木道」
三井　直人 様
モデル　髙畠祈莉

次点
「キッスは目にして」
矢島　彰 様
モデル　髙畠祈莉

次点
「かざしに花」
山田　栄一 様
モデル　杉浦檸檬

次点
「思いを馳せる」
横塚　英夫 様
モデル　池内リナ

この２～３年の作品を拝見していると嬉しい事に技術的にはレベルが上がっていると思います。だけどおとなしいイメージも拭えません。

雨よりも晴れている方が良いのは当然ですよね。雨だと着ているものやカメラ機材だって濡れるのが心配だと撮影もままならないことだってあります。モデルさんだって髪の毛が濡れてしまうと困りますし、肌寒かったりするとポーズだって固くなってしまいます。

撮影日の天候だけは誰のせいでもなくどうしようもない不可抗力です。

だけどものは考えようです。いつも穏やかな晴天の写真ばかりもつまらないもので、もしも雨が降ったなら雨なりの光線の美しさを見つける楽しさや、風が強ければその風があってこそ撮れる写真もあると思います。

天候だけの話しじゃ無くて、少しだけいつもと違った視点からアプローチしてみるのも面白いのではないでしょうか☆

2021年8月　HARUKI